

# CASE 1

## 発熱と下痢

**患者** 男性, 32歳, 会社員。

**初診日** 1994年11月3日

**主訴** 発熱, 下痢または軟便, 体がだるい。

**現病歴** 昨年12月上旬の健康診断のときに, 胃カメラ検査を受け軽いびらん性胃炎と過敏性腸症候群の併発と診断された。今年3月頃, 水泳をした後に発熱と下痢が起こり, 病院ではカゼと診断された。抗生物質の投与を受けた後, 体が非常にだるくなり, 立っていられなくなった。薬が原因かと思いい服薬を中止したところ, 発熱と下痢はすぐにおさまった。7月3日頃, プールで半日泳いだ後に, 再び発熱と下痢が起こったが, 次の日には回復した。ところが, 7月17日にプールで半日泳いだところ, 翌日になって再び前と同じく発熱(38℃)と下痢が起こったため, 某大学附属病院に入院した。血液検査・尿検査では異常はないと言われた。2カ月間の入院中は, 毎日点滴(薬品名は不明)を受け, お粥を食べて過ごした。9月20日に退院し自宅で療養中。現在までの間に, 飲尿療法・指圧・へそ灸などを試みたが効果はなかった。

**現症** とときどき熱が出る(37.6~37.9℃), 痩せ, 苦痛の顔貌, 精神不振, 顔色苍白, めまい, 食欲不振, 腹部脹満, げっぷ, 腹鳴, 1日2回くらいの下痢または軟便。夜はなかなか眠れない。

**診察** 体温36.9℃, 血圧82/58mmHg, 体重47kg(元の体重は55.5kg)。

**脈診** 細, 軟。右の関部, 沈, 細, 無力。

**舌診** 苔薄膩, やや黄色, 舌質淡。

**耳診** 左右両側の皮質下・神門・胃・大腸区に圧痛がみられる。両側の脾・胃・十二指腸区に灰色の丘疹がある。肺区に多量の屑がみられる。

**経絡診** 脾俞・胃俞・意舎・胃倉・建里・梁門・足三里・上巨虚・下巨虚・豊隆に圧痛がある。特に胃倉・足三里・上巨虚に索条隆起がみられる。

(吳澤森)